

平成31年

目黒区教育委員会

第4回定例会会議録

(平成31年1月29日開催)

第4回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成31年1月29日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	尾崎 富雄
	教育委員会教育長職務代行者	後藤 幸子
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	櫻井 道雄
	教育委員会委員	笹尾 敦夫

出席職員	教育次長	野口 晃
	教育政策課長	山野井 司
	学校統合推進課長	和田 信之
	学校運営課長	村上 隆章
	学校施設計画課長	鹿戸 健太
	教育指導課長	田中 浩
	教育支援課長	酒井 宏
	統括指導主事	寺尾 千英
	統括指導主事	古舘 秀樹
	生涯学習課長	馬場 和昭
	八雲中央図書館長	増田 武

書記		小野塚 幸隆
		山東 隆博

(議事日程)

- |      |      |   |
|------|------|---|
| 日程第1 | 報告事項 | 平成30年度目黒区教育委員会児童生徒表彰について                |
| 日程第2 | 報告事項 | 平成30年度目黒区立学校における四者による学校評価アンケートの実施結果について |
| 日程第3 | 報告事項 | 平成30年度小中学校卒業式祝辞について                     |
| 日程第4 | 報告事項 | 教職員の服務事故について                            |
| 日程第5 | 報告事項 | 目黒区青少年プラザ研修室一部の臨時休室について                 |
| 日程第6 | 報告事項 | インフルエンザによる学級閉鎖の状況について                   |

資料配布

- ・平成31年3月行事予定

(午前9時30分開会)

- 教育長 第4回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員、欠席職員はございません。署名委員は後藤委員です。  
それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 平成30年度目黒区教育委員会児童生徒表彰について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)  
○教育長 この件についてご質問等はありませんか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成30年度目黒区立学校における四者による学校評価アンケートの実施結果について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)  
○教育長 この件についてご質問等はありませんか。  
○委員 地域への配布枚数の差が課題だということですが、なぜそういった状況になっているのか理由がわかっていますか。  
あと、全ての項目において肯定的な回答が増えているということは、学校が一生懸命に子どもたちと向き合い、指導している結果だと感じておりますが、このアンケートから読み取れる小学校及び中学校の課題はどのように捉えていますか。

- 説明員 各学校、毎月、学校だより等を配布している方々に対しては、直接、このアンケートにご回答くださいと同封しておりますが、そこに郵券をつけているか否かで回収率に差があります。  
さらに申し上げますと、地域の回収率を上げれば上げるほど、わからないという回答が増えて、ここで挙げる肯定的な回答が下がるという現象も起きます。  
学校評価の中から見るとれる課題といたしましては、小中の連携への保護者の評価が小学校、中学校とも低く、積極的に校長が発信している学校については、肯定的評価が高くなっておりますので、取り組みをしっかりと発信することが必要と思っております。経年で見ていただくと、10年前よりも上がっているので、推進

していただきたいと思っております。

中学校の課題は、学習指導への保護者の評価が今年度は平均で71.0%と、低くなっているということがあります。確実に授業改善は進んでいますけれども、期待レベルまでには十分達していないということのあらわれと考えております。

発信の仕方も課題としてあると思いますので、授業を主体的、対話的で深い学びにしていくということが大事ですけれども、合わせて、子どもを通してではなく、直接、地域や保護者に発信していくということも重要と思います。

○委員

肯定的回答が減るからというところはわからなくもないですが、3枚から50枚という開きはいかがかだと思います。3枚回収をしているところと、50枚回収をしているところでは、全く違ってくると思います。そのあたりの何枚は出してほしいという縛りを設けないのでしょうか。

中学校に関しては、学習指導に対して保護者の回答の肯定的評価が低いということですが、保護者の期待がどこにあるのかということを探らないと、なかなか上がっていかないと思います。

学習指導に対して保護者が何を求めているのかを探るようなことは学校側としてはされていますか。

○説明員

3枚から50枚の開きという中で、その回収枚数を、ある一定の枚数にすべきではないかというところでございますが、この3枚という学校につきましては、ヒアリングをさせていただいたところ、学校評議員のみ配布だったということです。

学校評議員は学校の様子がわかっておりますので、肯定的な評価が高くなるということですが、学校に足を運んでいただけない方が回答すると、わからない項目が増えていってしまうというところがあります。

そういう中で、開かれた学校づくりに向けて、この四者による学校評価アンケートにおける地域を対象とするアンケートが、貢献しているかどうかというところは、いま一度、事務局の中で検討していかなければいけない課題と捉えています。積極的に校長たちに回収してくれという時代もあったのですが、その翌年に肯定的評価が減ってしまったというところがありましたので、私どもとしても二の足を踏んでいるというところがございます。

学習指導に関する保護者の期待というところで、これは改めて各中学校とも分析していかなければいけないと思いますけれども、

学校が行っている学習評価と学習指導がしっかりと保護者に伝わっていない可能性もあります。学習評価が授業改善や本人の学習意欲の向上につながる事が大事だとも、国のワーキンググループの報告でも言われているので、確実に個人面談等で学習の状況等も学習評価とともに保護者へ伝えていくことが重要と考え、中学校長会にも提案していきたいと思ひます。

○教育長 保護者が何を期待しているかという、そのところを把握しているかどうかということです。

○説明員 これまでも一貫して授業改善ということで取り組んでまいりました。昨年度末には集団に応じた授業改善という形で、ガイドラインをつくり、新学習指導要領に対応した主体的で、対話的で、深い学びを推進してまいりましたので、確実に授業が改善していると思ひていますが、中学校の保護者が期待されていることと、若干乖離があるということは改めて認識したところがございます。中学校長会、あるいは、中学校PTA連合会の方々にもご意見を聞き、分析しながら改善策を練っていきたくと思ひます。

○教育長 地域へのアンケートについては、毎年、繰り返し同じ質問が出ています。評価が落ちるからやらないということにはならないわけで、正当な評価をするには、例えば、地域教育懇談会の委員、元PTA会長、青少年委員、いろいろな方がいます。それをある程度学校長に示して、郵券が必要ならば支援する場合もあるかと思ひますけれども、ある程度サンプル数を集めないで、評価になりません。

評価は、一定の母数があつて初めて評価の対象になるので、これでは何の意味もありません。

来年度に向けて、ぜひ検討していただきたいと思ひます。

○説明員 学校に十分関わってくださる方はいますので、そういった方から確実に評価を受け取れるような方向で、校長会とも調整してまいりたいと思ひます。

○委員 42ページの心の教育ですが、小学校も中学校も、保護者の方の評価が少しずつ上がってきていますけれども、小学生の高学年児童がばらつきというか、一定の変化がないみたいに見えます。小学生に対する心の教育の難しさがあるのでしょうか。

○説明員 平成26年度から選択肢を3段階から4段階に変えたというところで、こういった変化が急激に起こっているところです。

実際には、十分達成しているというところが、今年ですけれど

も中学生が71.3ポイント、小学生は75ポイントということで、ポイント数では小学校が上回っています。

中学校ほど急激な伸びを示していないけれども、小学校は今年度から道徳科も始まりましたし、平成19年度からいじめ問題を考える子ども会議等も取り組んでおりますので、そういった取り組みは少しずつ、高まっていると思っています。

- 教育長            その他ご質問等ございますか。  
                      特にないようですのでこの報告を受けました。  
                      次に日程第3を議題とします。

(日程第3       平成30年度小中学校卒業式祝辞について(報告事項))

- 説明員           (資料により説明)
- 教育長           この件についてご意見等をお願いします。
- 委員             コンパクトで小学生が聞いていてもわかりやすく、鍵括弧で「おもしろい。何かありそうだ」とかいうところなどは、小学生の耳に入ってくる言葉、口語にして書かれているところがよいと思っています。ありがとうございました。
- 委員             ただ、言葉遣いという意味で、「実験のさなか」の、「さなか」は要らないと思いました。それから、「つまづく」のほかになにかうまい表現がないかなと思います。  
                      それ以外のところは、十分だと思います。ありがとうございました。
- 委員             9行目ですけれども、「今も多くの人が治療を」を、「続ける」よりは「受ける」ほうがよいと思いました。  
                      それから、「さなか」は、小学生的に使うのかと思いましたけれども、意味はとれなくないので、私は構わないとは思いますが、  
                      「実験の最中に」とか「実験中に」がいいかなと思います。  
                      「つまづく」というのは、多分、失敗したり行き詰まったりとか、そういう壁にぶち当たるというようなことを言っていると思うので、ここは違和感は感じませんでした。  
                      私が気になったのは、第6段落のところで「このようなすばらしい未来」というのが、すごく広がってしまっています。ここで言っている好奇心はもっと、小さくて、本当はどうなっているのか知りたいと思う、すごくピンポイントのところだったと思いま

す。それががんを根本的に治せるというすばらしい未来ととるのでしたら、それでいいと思いますけれども、この「すばらしい未来」が唐突に広がった表現として来るので、ここはもう少し狭めるか、わかりやすくしたほうがいいかなと思いました。

○委員 私も「治療を続ける」はどうかと思います。

あとは問題ないなと思いました。

○教育長 先ほど来話題になっております、「実験のさなかつまずくこともありましたが」というところ、「さなか」は、一般的なイメージからいうと「最中」ということですが、「雨が降りしきっているさなか飛び出していった」とか、何かそういうイメージの「さなか」が、どうしても強いです。

ですから、ほかの言葉に置きかえられるとすれば、先ほどの「20年を超える年月がかかりました」というところを引用して、「実験を続けたことから始まり、長い」と来て、「長い研究の間には、幾度も行き詰まることもありました」というような表現でしょうか。

それから、16行目の「おかげさまで趣味を楽しめるほど元気になった」は、これは口語体なのでこういう表現になっていると思いますけれども、小学生向けには口語体ではなくて、「『おかげで趣味を楽しめるほど元気になりました』と声をかけられたとき」のほうがいいと思いました。

それから、第6段落の「このようなすばらしい未来を」というところは、先ほど委員から指摘のあったとおりだと思います。

○委員 もう一度読み返してみて、15行目からの、「自分の研究に意味があった」というのは、本庶先生がおっしゃった言葉の引用ならそのままいいと思いますが、何か軽いと思いました。あと、先ほど委員がおっしゃったように、「このようなすばらしい未来」は唐突だなと。もう一度読み返してみると、好奇心と物事に粘り強く取り組む姿勢にスポットを当てて、それが将来的にすばらしい未来を切り開いていくという、逆の持っていく方が、文章としてしっくりいくかと思いました。

○委員 第5段落のところから始まるのところで、「実験を続けたことから始まりました」で一回切って、「長い研究の間には」と、そこでつなげなくてもいいと思いました。

「始まり、」としてしまうと、文章が長くなってしまうので、「始まりました。長い研究の間には」としても続くと思います。

それから、「すばらしい未来」のところを、ひっくり返すというのもいいなと思いましたがけれども、小学校の皆さんにも備わっていますということを言いたいとなると、こういう好奇心と粘り強く取り組む姿勢があなたたちにもあるんですよ、だから、頑張っ  
てね、と持っていきたいので、この好奇心の修飾語を考えれば  
いいということになると思います。

○委員           この14行目の「納得できるまでやるのだ」と「粘り強く取り組むことによつて」と、このところが言い回しとしては、「粘り強く納得できるまで取り組むことによつて」がすんなりしているのかと思いました。

○教育長           これまで各委員のご意見を踏まえて、現時点でここはこう修正する  
という考えがありますか。

○説明員           主に第5段落、第6段落のところ、文が長くなってしまふことを考えると、第5段落は1行目、2行目のところで一旦切らせて  
いただいて、確かに「実験」、「実験」と続きますので、「実験」と後半は年月かけたことを含めた「長い研究の」という始まりに直させて  
いただきたいと思います。

あとは、患者さんからの言葉については、子どもに親しみやすいように「なった」というよりは、「元気になりました」という  
言い方にしたいと思っております。

そして、「声をかけられたとき」、前のことを思い出しておっ  
しゃっているという意味では「た」でよいのかなと思いますので、  
そうします。

ご自身のインタビューの中で、自分の研究に意味があったという  
言い回しがありましたので、この「研究に意味があった」は  
そのまま使わせていただこうと思います。

そして、先ほど「元気になりました」と同じように、「何より  
もうれしいのだ」と、ここであえてそういった形でインタビュー  
に答えられていたわけではないので、「うれしいと話しています」  
と、子どもたちになじみの深い文の書き方でいきたいと考えてお  
ります。

そして、第6段落の好奇心に係る表現で、がん治療のこともあ  
りますが、好奇心というところだと、人と違うところにきちつ  
と目をつけて、そこから人が無理だと思っているところにも成果  
を出していくというところに楽しみを見出しているというお話を  
先生はされているので、この偶然出会った新しい物質を見て、人

は注目しないけれども、何かありそうだ、ひっかかるぞというような、その感性という部分のところからのアプローチで、好奇心というところに修飾語をつけてもいいのかと考えております。

○教育長 おおむねいいと思います。各委員には修正案を送っていただいて最終確認をするということにしたいと思います。それでは、次に中学生をお願いいたします。

○委員 インパクトのある祝辞だなと思って聞いておりました。この6つのCは子どもたちにとって、初めて聞く子もいると思うので、とても興味深く聞いてくれると思って、インパクトがあると思いました。第6段落の「自ら学び考えることに挑戦し努力を重ねたり、仲間とぶつかり……」結構長いと思いました。

あと、「6つのCを大切に」が聞いていて何となく違和感があります。

○委員 私は、第3段落の「研究に取り組む姿を例に」の「例に」が、聞いていて、ひっかかってしまいました。「研究に取り組む姿について、これからの生き方に期待したいこととお話します」と言葉の並べ方を変え、「例に」をとってしまったほうが良いと思いました。

「6つのCを大切に」の、その「大切に」も確かに、聞いていてどうかと思います。

それから、「必ずできると信じ集中して取り組み続ける」、これは、「信じ」、「集中」、「取り組み続ける」と、動詞が3つ並んでいるわけです。これは、くどいように聞こえてしまうという印象を受けましたので、言葉の並べ方と、省略できるところは省略していいと思います。

○委員 第4段落のところの「先生の発見は」で、「これまでの常識を覆し」で切って、「日本人の二人の一人がかかる」となると、この「これまでの常識を覆し」は何にかかるとかなと聞いていて思いました。

あと、第6段落は少し長いし、6つのCを全部いう必要はないと思うので、そこはもう少し整理してまとめてしまってもいいと思います。

○委員 少し抵抗を感じたのは、「二人に一人がかかる」がんの脅威というのが抵抗を感じます。二人に一人がかかる病気が脅威だったら、少し怖いと思うので、「二人に一人がかかるがんに立ち向かう」でもいいかと思っています。

○教育長 いろいろ意見が出ましたけれども、この段階で何か考えがありますか。

○説明員 長くて言葉が重複し、重いところは、整理しようと考えております。

「6つのCを大切に」が2回出ているというのがありますが、本庶先生の研究室のホームページに、「6つのCを大切に」と示しているというところもあるので、1カ所はその言葉を使わせていただき、ただ、最後、第7段落でまとめとして言うときに、もう一度その言葉を使わなくてもいいのかなと考えておりますので、文になじむような言い回しに変更をしようと考えております。

最初は、「胸に刻んで」という表現を考えておりましたので、特に第7段落のところは、うまく発音しやすく、子どもたちにもすっと入っていくような言葉に言い換えをしたいと思います。

○委員 「6つのCを大切に」というところは、「胸に刻んで」、これはあくまでも気持ちの問題ですけれども、今後生きていく上でそこを使って未来を切り開いていくという、ツールのもものになっていくと思うので、胸に刻んでというところの言い回しもいいと思いました。

○委員 私も「がんの脅威」という、「脅威」という言葉は、確かに聞いていると、中学生だったらわかるとは思ったんですけれども、スムーズな文章の中に「脅威」という言葉が入ってくると、目立ち過ぎるという印象を受けました。

この第5段落までは本庶先生の努力のことで、第6段落からは聞いている卒業生の皆さんに響くような形でということで、第6段落、第7段落は聞いてもらいたいという意味から、文章は短めに、途中で切って、それから、難しい言葉は使わないというような形にうまくまとめられればいいのではないかと思います。途中で丸を1つ増やすということと、この「重ねたり」「続けたり」「組んだり」という、この繰り返しが、聞いていると少し重たくなるという印象も受けましたので、どこかをとってしまうというような形でもいいのではないかと思います。

それから、「6つのCを胸に刻んで」という「胸に刻む」というような言葉は、インパクトがあるのではないかと思います。

○委員 そうですね。確かに「大きな成果をつかみとってほしい」というと、人間的に大きく成長して欲しいということだと思

ます。

胸に刻んでというのもいいと思います。この6つのCの中から、中学生が今は勇気が必要なんだとか、今チャレンジしなきゃいけないんだという、場面、場面によって色々なものを強く思ってくればいいので、この6つがあれば、自分を励ましてくれるものがあるだろうと思うから、そういう意味で、「胸に刻んで」というと、励ましの言葉としていいと思いました。

○教育長                    ありがとうございました。

おおむね、思っていることは同じところですので、事務局から送付されるものを、最終確認をしていただければと思います。

○教育長                    その他ご意見等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第4を議題とします。

(日程第4            教職員の服務事故について(報告事項))

○説明員                   (資料により説明)

○教育長                   この件についてご質問等はございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第5を議題とします。

(日程第5            目黒区青少年プラザ研修室一部の臨時休室について(報告事項))

○説明員                   (資料により説明)

○教育長                   この件についてご質問等はございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第6を議題とします。

(日程第6            インフルエンザによる学級閉鎖の状況について(報告事項))

○説明員                   (資料により説明)

○教育長                   この件についてご質問等はございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。

〔 資料配布  
・平成31年3月行事予定 〕

○教育長 以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時56分閉会)